

令和6年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	知事公室
日 時	令和6年(2024年)4月19日(金) 15:45~16:22
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、江島副知事、大杉副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 防災危機管理監(防災危機管理局長事務取扱)、知事公室次長、秘書課長、広報課長、知事公室管理監(防災危機管理局副局長事務取扱、危機管理室長事務取扱)、防災危機管理局防災対策室長、防災危機管理局原子力防災室長

発言者	発言概要
総務部長	滋賀ならではの災害への対応を考えていく必要があると感じている。 危機管理室の「次なる感染症発生に備えた対策」とは、具体的に想定しているものがあれば参考に教えてほしい。
知事公室管理監 (危機管理室長 事務取扱)	次なる感染症としてイメージしているものはないが、コロナでとても大変な状況だったものの、2類から5類になり落ち着いてくると人はすぐに忘れ、次のことに関心が向く。国と地方との連携や県と市町との連携がどうだったのか、保健所など紙文化における情報の集約が大変だったことなどを、行動計画に反映し、次なる感染症対策につなげていきたい。
知事	健康医療福祉部健康危機管理課としっかり連携してほしい。 先ほどの協議でも、カナリヤになってくれ、奴隷になれ、早めに察知せよと伝えた。たぶん5年後には来る。だいたい10年間隔で来ていたものが最近早まっている。鶏、豚、牛を媒介して来る、これにどう備えるか。今度はもっと死亡者が多い感染症になるかもしれない。
総合政策部長	知事の思いの橋渡し役になるのは、去年1年やっていて難しいと感じていたことだが、紙で伝えようとする、「この場面でこういう発言があった」だけが伝わると、発言に至る背景や認識の共有がない場合、意図を飲み込まず、発言通りの行為だけをやろうとし、歪んでしまうことが無きにしも非ずかと。苦勞してもらっていると思う。他の部もアンテナを高く、世の中で起こっていることや他の部で取り組んでいることを踏まえて聞くとわかることもあるかもしれないので、庁議を活用していかなければならないと改めて思った。 広報課に対しては、事業担当課では資料提供などにより発信した結果、どのように報じられたのか(取り上げられ方など)を追いきれないところがあるので、手間かと思うが、取り上げられたことを紹介して(戻して)もらえれば、他の課にも参考になる。 防災危機管理局に対しては、災害体制の見直しについて、全庁に向けてうまくすり出せたと聞き、安心している。体制も大事だが、例えば先日の愛媛、高知の地震が発生した際、南海トラフ地震ではないかと防災危機管理局以外の職員も感じ、すぐ動くといった感覚を持つにはどうすればいいのかも大事ではないかと思う。
大杉副知事	災害対応体制は庁内部局の連携体制はかなりしっかりできていて、能登半島地震を踏まえてどうするかを考えておられるが、そういう議論が関係団体にどう伝わっているのか。先日、三師会の会長が来られ、能登半島地震を踏まえ、どのように対応していくのが聞こえてこないとお話があり、健康医療福祉部の問題ではあると思うが、関係団体との連絡体制について、これまでは個人的なコミュニケーションでカバーしていた部分をもう少し組織的に伝わるように検討してもらえれば。 秘書課の職員には、しっかりフォローしていただき、対話しながら仕事を進めてもらっているのを助かっている。
江島副知事	伝えることは大切だと思うが、広報戦略は2.0はいらないのか。バージョンアップすべきことがあれば、バージョンアップしてほしい。
広報課長	職員の中にそのようなイズムが定着すれば、わざわざ戦略として掲げなくてもいいのかも思うところもある。今年は広報係と報道係を融合させ、情報の「入」と「出」を集約しながらやっていながら考えていきたい。
江島副知事	情報の見える化について、所属長による記者会見もそうだが、国際関係で見える化が不足していたので、見えるようにしてほしい。 訓練について、受援を含む訓練なのか。
原子力防災室長	受援もある。実際に道路啓開などの場合、団体に動いてもらうこととなる。
江島副知事	受援を訓練に含むのはいいと思う。 理事員には知事政策担当として秘書課の中で役割を果たしていただきながら、さらに各部局に思いを伝えられるよううまくコーディネートしてほしい。
次長	3つのことに取り組みたい。1つは心理的安全性を大切にして組織の潤滑油になりたい。2つは、去年までは現場を持つ所属を体験した中で、価値の磨き上げがまだまだできていないところがあるので、視野を広げながらその手伝いができたら。3つは、庁内に向けて、県政がどう動いているか、伝わるような取組を考えていきたい。

知事	<p>今年は大きな災害から始まったので、災害と戦争の意識を高めたい。先日の首長会議で、もっと市町に言ってくれとの声があったが、やはり市町を巻き込むのに遠慮していた。私は最初から市町を入れるべきだと思っていたが、県だけでやろうとしすぎた。これは反省だと思う。徹底的に市町に言えばいい。そういう意味で、防災士や協定がどうなっているのかの点検をやろう。</p> <p>あと、企業庁がFirst Mission Box®を作っている。発災直後に知事・副知事がやることを早急にまとめる必要がある。</p> <p>「First Mission Boxは、長野県飯田市と国崎信江（一般社団法人 危機管理教育研究所 理事長）により考案されたものです」</p>
知事	<p>あと、BBCのことが気になる。これだけテレビを見なくなり、とりあえず出資はつなげたが、この先どうなるかを考えるとしんどい。ただ、最近日経新聞に滋賀県のことがよく載る。5年前と比較すると格段に増えていると思う。日経新聞に載ると経済界が反応する。知事が国に対して言ったり、他の知事が言わないことを言ったりすることで滋賀の吸引力が増している。</p> <p>原発なども遠慮する必要はなく、一般の住民からの意見を関西電力に届けたことで、関西電力からも感謝された。様々なことを遠慮なく発言することが吸引力になる。</p> <p>知事を10年やってきて、職員との溝が最近広がってきているのではないかとの感が反省も含めてある。知事の発言を待っていたり、知事の意図がわからなかったりということがないように感じるので、それをどうしたらよいか、一緒に考えていきたい。</p> <p>担当職員よりわかった気であるのかもしれないし、協議の時間が取れなくなったことがあるかもしれないし、このあたりはぜひ副知事をはじめ、知事公室のみなさんと一緒に考えたいと思う。</p> <p>BBCがスポンサーを集めて、知事10年の特番を作りたいと思うがどうですかと言われたが、作らなくても良いと一蹴しておいた。提灯持ちはしなくてよい。</p>